

アジア・アフリカ学術基盤形成事業
平成24年度 実施報告書

1. 拠点機関

日本側拠点機関：	大阪大学
(ザンビア)拠点機関：	ザンビア大学
(南アフリカ)拠点機関：	フリー・ステート大学
(タンザニア)拠点機関：	国際関係センター

2. 研究交流課題名

(和文)：南部アフリカにおける「平和のオアシス」形成に向けた研究ネットワークの
制度化 (交流分野：政治学)

(英文)：Towards the development of an 'oasis of peace' through the
institutionalization of a research network in southern Africa
(交流分野：Politics)

研究交流課題に係るホームページ：<http://www.saccps.org/>

3. 採用期間

平成23年4月1日～平成26年3月31日
(2年度目)

4. 実施体制

日本側実施組織

拠点機関：大阪大学

実施組織代表者(所属部局・職・氏名)：学長・平野俊夫

コーディネーター(所属部局・職・氏名)：大学院国際公共政策研究科・准教授・
HAWKINS, Virgil

協力機関：なし

事務組織：大阪大学国際交流オフィス国際交流課国際交流推進係、
大阪大学経済学研究科・国際公共政策研究科事務部

相手国側実施組織(拠点機関名・協力機関名は、和英併記願います。)

(1) 国(地域)名：ザンビア

拠点機関：(英文) University of Zambia (UNZA)

(和文) ザンビア大学

コーディネーター（所属部局・職・氏名）：

（英文） School of Humanities and Social Sciences ・ Professor ・
PHIRI, Bizeck

協力機関：（英文） Zambia Open University (ZAOU)

（和文） ザンビア・オープン大学

協力機関：（英文） Copperbelt University (CBU)

（和文） コッパーベルト大学

（２）国（地域）名：南アフリカ

拠点機関：（英文） University of the Free State

（和文） フリー・ステート大学

コーディネーター（所属部局・職・氏名）：

（英文） Department of Political Science ・ Senior Professor ・
SOLOMON, Hussein

協力機関：（英文） University of Pretoria

（和文） プレトリア大学

（３）国（地域）名：タンザニア

拠点機関：（英文） Centre for Foreign Relations

（和文） 国際関係センター

コーディネーター（所属部局・職・氏名）：

（英文） Centre for Foreign Relations ・ Lecturer ・ SHAHARI, Riziki

協力機関：（英文） なし

（和文） なし

5. 全期間を通じた研究交流目標

度重なる武力紛争と人道危機を経験した南部アフリカ地域において紛争を収拾し、持続的な平和と発展を確保することは、最も重要で喫緊の基盤的研究課題の一つといえる。本事業は、平和国家として平和の尊さを知り、武力による問題解決の愚かさを知る日本側研究者が主導し、日本と南部アフリカを結び、紛争解決と平和の持続化に高度な知的貢献のできる研究者の育成とネットワーク化を研究交流目的とする。具体的には、ザンビアのパートナー大学と密接に連携し、ザンビアに南部アフリカ地域ワイドで紛争と平和に関する研究拠点となる「平和のオアシス研究所」（仮称）を設立し、それと大阪大学大学院国際公共政策研究科（OSIPP）をハブとする日本側の紛争研究コミュニティとをつないだ学術基盤を形成することを構想している。この学術基盤を通じ、日本側は学

術的知見を南部アフリカへの提供するほか、紛争の現場に生きる南部アフリカの研究者との直接的・継続的な知的交流で、若手を含む日本側研究者の研究の深化も期待できる。

南部アフリカでは未だ研究交流・発信の機会が限定的で、長年の紛争と平和活動から得た知識・経験・教訓が豊富に存在するが、相互に共有されていない。ここで地域の研究者間のネットワーク化が制度化できれば、これらの「知的財産」の共有が一気に進む潜在性がある。この点、ザンビアは、まさに「平和のオアシス」として、周りを紛争経験国に囲まれながらも平和と政治的安定を確保しており、地域の若手を含む研究者を結ぶハブとなる格好の環境を備えている。日本の研究者にとっても、ザンビアは、アフリカについて学ぶ上で、紛争の現場情報へのアクセスや現地の研究者との交流のため有益な拠点として機能しうる。

日・ザンビアの両拠点間で共同研究（平成 23 年度には「紛争と仲介」、平成 24 年度には「平和維持・強制」、平成 25 年度は「平和構築：持続的な平和と発展の実現」をトピックに予定）を進め、実際の研究会合に加え、新規に編集するオンライン・ジャーナルやウェブを通じた成果の検討や公表を進める。

持続的な平和と発展に向けて日・南部アフリカ間の高度な知の集積と交換に弾みつけ、「平和のオアシス」を南部アフリカ・ワイドに広げることに日本が手を貸すことができたならば、大きな知的成果と言えよう。

6. 平成 24 年度研究交流目標

平成 23 年度には紛争と平和に関する研究拠点となる「平和のオアシス研究所」(仮称)に向けて、ザンビア・オープン大学を中心に設立準備室を開設した。平成 24 年度の目標としては、この設立準備室及び地域のネットワークを通じて、研究所のための具体的な計画（施設及び活動計画）を完成させることである。さらに、資金調達のためのプロポーザルを作成し、研究所の実現に向けてドナー候補にプロポーザルを提出することも目標とする。また、研究所のみならず、地域のネットワーク全体のあり方と資金調達を議論する必要もある。本事業終了後のネットワーク維持・拡大のための具体的な措置も検討する。

学術的観点からの目標としては、共同研究とセミナーを通じて、南部アフリカの国々がこれまで経験してきた平和維持・平和強制の試みに関する分析を行い、その成果と課題を明らかにし、まとめる。また、平成 24 年度には、オンライン・ジャーナル第 1 巻第 1 号・2 号まで公表する。オンライン・ジャーナルは学術論文のみならず、政策分析、書評も含む。さらに、平成 23 年度に始めたブログを続行し、平成 24 年度には少なくとも地域内外から 20 のエントリーを公表する。

若手研究者養成という観点からの目標としては、平成 24 年度の派遣研究者の内、4 人を若手研究者とする。現在の予定では、日本、南アフリカ、アンゴラ、コンゴ民主共和国から各 1 名の若手研究者を他国へ派遣する。これらの若手研究者は共同研究および

セミナーに参加する。また、研究者の派遣先の大学で講演会を開くことを通じて、日本及び南部アフリカ内の若手研究者の南部アフリカにおける紛争と平和の問題に関する意識・関心を高めることも目標とする。

7. 平成24年度研究交流成果

(交流を通じての相手国からの貢献及び相手国への貢献を含めてください。)

7-1 研究協力体制の構築状況

本事業の最終的目標のひとつは南部アフリカ地域ワイドで紛争と平和に関する研究拠点となる「平和のオアシス研究所」(仮称)をザンビアに設立することである。平成23年度にはザンビア大学及びザンビア・オープン大学を中心に設立準備室を開設し、平成24年度の目的は研究所のための具体的な計画を完成させ、資金調達のためのプロポーザルを提出することであった。しかし、平成24年度には状況が大きく変わり、その提出はしていない。ザンビアの協力機関であるコッパーベルト大学では、新しく紛争と平和の研究科の建物を新築することが判明し、その一環として、「平和のオアシス研究所」を設立するという合意に至った。従って、「平和のオアシス研究所」のプロポーザルはコッパーベルト大学の研究科に合わせて進めることになった。

7-2 学術面の成果

学術的観点からの目標としては、共同研究とセミナーを通じて、南部アフリカの国々がこれまで経験してきた平和維持紛・平和強制の試みに関する分析を行い、その成果と課題を明らかにし、まとめることを目標にしていた。平成24年9月、ザンビアの首都ルサカで南部アフリカにおける仲介・和解というテーマでセミナーを開催した。共同研究の参加研究者の多くがセミナーに向けて研究を推め、12人が学術論文を用意した。これらの論文は多様な側面から平和維持・平和強制を捉え、ミクロからマクロレベル、地域内および地域外からの教訓などが分析の対象となった。さらに、外交官や防衛省を代表する参加者が実践者のためのセッションに参加し、より現実的な捉え方が可能となった。この研究成果などを発信するため、オンライン・ジャーナル(Southern African Peace and Security Studies)が平成23年度から準備されていたが、平成24年度にはその第1巻第1号と第1巻第2号が無事出版された。さらに、参加研究者がインターネットを通じて、研究の成果をインフォーマルに公開し、リアルタイムに交流ができるために、ブログ(Southern African Peace and Security Blog)が開始され、予想をはるかに超える42の投稿が掲載された。

7-3 若手研究者育成

若手研究者養成という観点からの目標としては、平成24年度の派遣研究者の内、4人を若手研究者とする予定であった。成果はこの目標をはるかに超えた。日本側から2

人の若手研究者（1-7、1-8）がセミナーに参加した。また、年度の途中から、日本側からさらに2人の若手研究者（1-9、1-10）が本事業に加わり、研究者交流として参加した。また、ボツワナ、マラウイ（ザンビア側）、コンゴ民主共和国（タンザニア側）から1人ずつ（2-17、2-19、4-8）、セミナー及び共同研究のために派遣された。

7-4 その他（社会貢献や独自の目的等）

研究活動及び成果は研究者同士だけでアクセスするものではなく、関心のある政策作成者、NGO、一般市民も利用でき、議論に参加することができるように、様々な工夫をした。セミナーでは、積極的に政策作成者（特にザンビア政府が各国大使館）やNGOに参加を呼びかけた。事業のホームページも充実させ、できる限り情報を一般公開している。例えば、研究交流の際に行われる講演会のプレゼン資料をホームページに載せている。さらに、参加研究者がインターネットを通じて、研究の成果をわかりやすい形で公開し、リアルタイムに交流ができるために、ブログ（Southern African Peace and Security Blog）を頻繁に更新している。また、研究者・実務者に対して、南部アフリカにおける平和と安全保障に関する見解を聞き取り、ビデオインタビューとしてインターネットに流し始めた。

7-5 今後の課題・問題点

平成24年度には弱点であった紛争を経験してきた南部アフリカ国々からの参加は改善され、セミナーにはコンゴ民主共和国とブルンジからの研究者が参加された。また、モザンビークとジンバブエの研究者との交流が深まった。しかし、これらの研究者の共同研究への参加がまだ弱く、オンライン・ジャーナルへの投稿がまだ実現されていない。また、紛争と平和関連で重要な役割を果たせるアンゴラとの実質的な交流がまだ不十分であり、25年度にはこの状況の改善が求められる。

平成24年度には、「平和のオアシス研究所」の計画が大きく変わり、研究所の実現はコッパーベルト大学の平和と紛争研究科と並行して進めることが決まった。実現すれば非常に安定した研究所の新設が可能となるが、この予定変更によって、計画実施が延びざるを得ない。この長期的な「ハード」の側面を進めるとともに、「ソフト」な人的ネットワーク及び共同研究を強化する必要がある。

7-6 本研究交流事業により発表された論文

平成24年度論文総数 6本

相手国参加研究者との共著 0本

（※ 「本事業名が明記されているもの」を計上・記入してください。）

（※ 詳細は別紙「論文リスト」に記入してください。）

8. 平成24年度研究交流実績状況

8-1 共同研究

—研究課題ごとに作成してください。—

整理番号	R-1	研究開始年度	平成24年度	研究終了年度	平成24年度		
研究課題名	(和文) 南部アフリカにおける平和維持・平和強制 (英文) Peacekeeping and Peace Enforcement in Southern Africa						
日本側代表者 氏名・所属・職	(和文) ホーキンス、ヴァージル・大阪大学・准教授 (英文) Hawkins, Virgil・Osaka University・Associate Professor						
相手国側代表者 氏名・所属・職	Phiri, Bizeck・ザンビア大学・教授 Solomon, Hussein・フリー・ステート大学・教授 Shahari, Riziki・国際関係センター・講師						
交流予定人数 (※日本側予算によらない交流についても、カッコ書きで記入のこと。)	① 相手国との交流						
	派遣先	日本	ザンビア	南アフリカ	マラウイ (ザンビア側)	ジンバブエ (南アフリカ側)	計
	派遣元	<人/人日>	<人/人日>	<人/人日>	<人/人日>	<人/人日>	<人/人日>
	日本 <人/人日>	実施計画					
		実績		1/6(1/4)		1/2	2/8(1/4)
	ザンビア <人/人日>	実施計画		1/5	1/5		2/10
		実績					
	南アフリカ <人/人日>	実施計画	1/5				1/5
		実績					
	マラウイ (ザンビア側)	実施計画					
		実績		1/6			1/6
	ボツワナ (ザンビア側)	実施計画					
		実績		1/4			1/4
	アンゴラ (ザンビア側)	実施計画		1/5			1/5
		実績					
	ブルンジ (南アフリカ側)	実施計画					
		実績	1/2				1/2
	コンゴ民 (タンザニア)	実施計画	1/5				1/5
		実績					
	合計 <人/人日>	実施計画		2/10	2/10	1/5	5/25
		実績		1/2	3/16(1/4)		5/20(1/4)
	② 国内での交流 0/0 人/人日						
日本側参加者数							
4名	(12-1 日本側参加者リストを参照)						
(ザンビア) 側参加者数							

13名	(12-2 相手国(ザンビア)側参加研究者リストを参照)
(南アフリカ)側参加者数	
7名	(12-3 相手国(南アフリカ)側参加研究者リストを参照)
(タンザニア)側参加者数	
7名	(12-4 相手国(タンザニア)側参加研究者リストを参照)
24年度の 研究交流活動	大阪大学の Valdez Duffau (1-8) は6日間、南アフリカの南アフリカ大学、プレトリア大学等を訪問し、Kotze 教授 (3-5) や Miti 教授 (3-3) と協議し、研究を進めた。大阪大学の Hawkins (1-1) はジンバブエの3つの大学を訪問し、資料収集をしながら、共同研究を計画した。Ndayisaba 教授 (3-7) はコッパーベルト大学で資料収集をし、今日研究について、Kangwa 講師 (2-11) と協議をした。また Hawkins (1-1)、Mhango (2-17)、Mokhawa (2-19) は南アフリカのフリー・ステート大学を訪問し、ワークショップで共同研究の成果を発表した。
24年度の 研究交流活動 から得られた 成果	南部アフリカにおける平和維持・平和強制の試みに関する分析が行われ、いくつかの形で成果がまとめられた。南部アフリカ全体をカバーする待機軍(南部アフリカの African Standby Force 部隊)に関する論文(Solomon (3-1) 執筆)がすでにオンライン・ジャーナル(第1巻第2号)に発表され、他の論文の発表も予定されている。さらに、研究成果をインフォーマルな形で発表が可能なブログ(Southern African Peace and Security Blog)が軌道に乗り、本事業の参加研究者及び外部者により、42の投稿が掲載された。また、南アフリカのフリー・ステート大学でのワークショップを通じて、平成25年度の共同研究のための計画が進み、本事業のメンバーを中心に書籍の共同執筆も決まった。

8-2 セミナー

—実施したセミナーごとに作成してください。—

整理番号	S-1
セミナー名	(和文) 日本学術振興会アジア・アフリカ学術基盤形成事業「南部アフリカにおける平和維持・平和強制」 (英文) JSPS AA Science Platform Program “Peacekeeping and peace enforcement in southern Africa”
開催期間	平成 24 年 9 月 21 日 ～ 平成 24 年 9 月 23 日 (3 日間)
開催地 (国名、都市名、会場名)	(和文) ザンビア、ルサカ (英文) Zambia, Lusaka, Chrismar Hotel
日本側開催責任者 氏名・所属・職	(和文) ホーキンス、ヴァージル・大阪大学・准教授 (英文) Hawkins, Virgil・Osaka University・Associate Professor
相手国側開催責任者 氏名・所属・職 (※日本以外で開催の場合)	Phiri, Bizeck・ザンビア大学・教授

参加者数

派遣先 派遣元	セミナー開催国 (ザンビア)	
日本 <人/人日>	A.	3/23
	B.	0/0
	C.	0/0
ザンビア <人/人日>	A.	3/12
	B.	0/0
	C.	8/16
南アフリカ <人/人日>	A.	3/11
	B.	0/0
	C.	0/0
タンザニア <人/人日>	A.	1/4
	B.	0/0
	C.	0/0
マラウイ (ザンビア側) <人/人日>	A.	1/6
	B.	0/0
	C.	0/0
ボツワナ (ザンビア側)	A.	1/6
	B.	0/0

<人/人日>	C.	0/0
ブルンジ (南アフリカ側) <人/人日>	A.	1/5
	B.	0/0
	C.	0/0
コンゴ民主 共和国(タンザニ ア側) <人/人日>	A.	1/6
	B.	0/0
	C.	0/0
合計 <人/人日>	A.	14/73
	B.	0/0
	C.	8/16

A. セミナー経費から旅費を負担

B. 共同研究・研究者交流から旅費を負担

C. 本事業経費から旅費を負担しない(参加研究者リストに記載されていない研究者は集計しないでください。)

セミナー開催の目的	平成 24 年度の共同研究のテーマである「南部アフリカにおける平和維持・平和強制」(Peacekeeping and Peace Enforcement in Southern Africa) の成果をまとめ、発信することをセミナーの目的とする。具体的には、平和維持・平和強制の概念・課題、あるいは南部アフリカの地域における紛争仲介・和解の事例について理解を深めることである。また、「平和のオアシス研究所」の設立に向けて協議を行い、研究所のあり方及び活動の計画をまとめることも目的とする。				
セミナーの成果	平和維持・平和強制をテーマにしたセミナーは予定通り実施された。「概念・全体像」、「南部アフリカ開発共同体」、「コンゴ民主共和国問題」、「国際レベル」からの視点と、4つのセッションに分け、12人による研究発表が行われた。その後、ザンビア防衛省や外務省、NGOの視点からの実践者に構成され、学術側面と現場をつなぐことができた。最後にはセミナーのまとめとなるセッションを通じ、今後の交流・コラボレーションに関する議論が行われた。また、「平和のオアシス研究所」の設立に向けて、計画・資金調達に関する具体的な議論が行われ、コッパーベルト大学と大阪大学がリードをとることが決まった。				
セミナーの運営組織	セミナーの運営はザンビア側のコーディネーター(ザンビア大学の Phiri 教授)の監督のもと、ザンビア・オープン大学のコーディネーターおよび大阪大学のコーディネーターによって行われた。事務補佐はザンビア・オープン大学の事務職員が担った。				
開催経費 分担内容 と金額	日本側	内容	国内旅費	金額	53,430 円
			外国旅費	金額	2,425,043 円
			その他	金額	569,724 円
			合計	金額	3,048,197 円
	(ザンビア) 側	内容		金額	0 円
	(南アフリカ) 側	内容		金額	0 円
	(タンザニア) 側	内容		金額	0 円

8-3 研究者交流（共同研究、セミナー以外の交流）

① 相手国との交流

派遣先		日本	ザンビア	南アフリカ	タンザニア	ボツワナ(ザンビア側)	アンゴラ(ザンビア側)	計
派遣元		<人/人日>	<人/人日>	<人/人日>	<人/人日>	<人/人日>	<人/人日>	<人/人日>
日本 <人/人日>	実施計画						2/10	2/10
	実績		(3/12)	(2/8)	(3/12)			(8/32)
ザンビア <人/人日>	実施計画	1/6						1/6
	実績							
南アフリカ <人/人日>	実施計画	(1/6)						(1/6)
	実績	1/8						1/8
タンザニア <人/人日>	実施計画							
	実績							
マラウイ(ザンビア側)	実施計画							
	実績	1/7				1/4		2/11
合計 <人/人日>	実施計画	1/6(1/6)					2/10	3/16(1/6)
	実績	2/15	(3/12)	(2/8)	(3/12)	1/4		3/19(8/32)
② 国内での交流		2/7	人/人日					

所属・職名 派遣者名	派遣・受入先 (国・都市・機関)	派遣期間	用務・目的等
1 相手国との交流			
フリー・ステート大学・教授・テオ・ニースリング	日本・大阪・大阪大学	2012年12月	研究者と交流をし、情報共有・意見交換。リビア及びコンゴ民主共和国問題に関する研究会にも参加。
大阪大学・准教授・ヴァージル・ホーキンス	ザンビア・ルサカ・サンビア大学等	2013年2月	南アフリカで紛争・平和を研究する研究者と交流をし、情報共有・意見交換。講演会を実施
大阪大学・修士課程・ジャスティン・ウルフ	ザンビア・ルサカ・サンビア大学等	2013年2月	南アフリカで紛争・平和を研究する研究者と交流をし、情報共有・意見交換。
大阪大学・修士課程・阪野一真	ザンビア・ルサカ・サンビア大学等	2013年2月	南アフリカで紛争・平和を研究する研究者と交流をし、情報共有・意見交換。
大阪大学・修士課程・ジャスティン・ウルフ	南アフリカ・フリー・ステート大学	2013年2月	南アフリカで紛争・平和を研究する研究者と交流をし、情報共有・意見交換。

大阪大学・修士課程・阪野一真	南アフリカ・フリー・ステート大学	2013年2月	南アフリカで紛争・平和を研究する研究者と交流をし、情報共有・意見交換。
大阪大学・准教授・ヴァージル・ホーキンス	タンザニア・ダルエスサラーム大学等	2013年2月	南アフリカで紛争・平和を研究する研究者と交流をし、情報共有・意見交換。講演会を実施
大阪大学・修士課程・ジャスティン・ウルフ	タンザニア・ダルエスサラーム大学等	2013年2月	南アフリカで紛争・平和を研究する研究者と交流をし、情報共有・意見交換。
大阪大学・修士課程・阪野一真	タンザニア・ダルエスサラーム大学等	2013年2月	南アフリカで紛争・平和を研究する研究者と交流をし、情報共有・意見交換。
ムズズ大学・講師・ジョージ・ムハンゴ	ボツワナ・ボツワナ大学	2013年2月	南アフリカで紛争・平和を研究する研究者と交流をし、情報共有・意見交換。
2 国内での交流			
大阪大学・准教授・ヴァージル・ホーキンス	在京ザンビア大使館	2012年10月	来日中（東京）のザンビア外務大臣と会談
大阪大学・准教授・ヴァージル・ホーキンス	三重大学	2012年11月	国際平和研究学会で研究成果発表・情報収集。

9. 平成24年度研究交流実績総人数・人日数

9-1 相手国との交流実績

派遣先 派遣元		日本	ザンビア	南アフリ カ	タンザニ ア	マラウイ (ザンビ ア側)	ボツワナ (ザンビ ア側)	アンゴラ (ザンビ ア側)	ジンバブ エ(南ア 側)	計
		<人/人日>	<人/人日>	<人/人日>	<人/人日>	<人/人日>	<人/人日>	<人/人日>	<人/人日>	<人/人日>
日本 <人/人日>	実施計画		2/10					2/10		4/20
	実績		3/23 (3/12)	1/6 (3/12)	(3/12)				1/2	5/31 (9/36)
ザンビア <人/人日>	実施計画	1/6		1/5		1/5				3/16
	実績									
南アフリカ <人/人日>	実施計画	(1/6)	3/13							3/13 (1/6)
	実績	1/8	3/11							4/19
タンザニア <人/人日>	実施計画		2/8							2/8
	実績		1/4							1/4
マラウイ(ザ ンビア側)	実施計画		1/4							1/4
	実績	1/7	1/6	1/6			1/4			4/23
ボツワナ(ザ ンビア側)	実施計画		1/4							1/4
	実績		1/6	1/4						2/10
アンゴラ(ザ ンビア側)	実施計画		1/4	1/5						2/9
	実績									
モザンビーク (南アフリカ)	実施計画		1/4							1/4
	実績									
ブルンジ(南 アフリカ側)	実施計画									
	実績		2/7							2/7
ジンバブエ (南アフリカ)	実施計画		1/4							1/4
	実績									
コンゴ民(タ ンザニア側)	実施計画		2/9							2/9
	実績		1/6							1/6
合計 <人/人日>	実施計画	1/6 (1/6)	14/60	2/10		1/5		2/10		20/91 (1/6)
	実績	2/15	12/63 (3/12)	3/16 (3/12)	(3/12)		1/4		1/2	19/100 (9/36)

※各国別に、研究者交流・共同研究・セミナーにて交流した人数・人日数を記載してください。(なお、記入の仕方の詳細については「記入上の注意」を参考にしてください。)

※日本側予算によらない交流についても、カッコ書きで記入してください。(合計欄は()をのぞいた人数・人日数としてください。)

9-2 国内での交流実績

実施計画	実績
1 / 1 <人/人日>	2 / 7 <人/人日>

10. 平成24年度経費使用総額

(単位 円)

	経費内訳	金額	備考
研究交流経費	国内旅費	367,010	
	外国旅費	3,191,933	
	謝金	0	
	備品・消耗品購入費	14,760	
	その他経費	1,210,622	
	外国旅費・謝金等に 係る消費税	202,675	
	計	4,987,000	
委託手数料		498,000	
合 計		5,485,000	

11. 四半期毎の経費使用額及び交流実績

	経費使用額 (円)	交流人数<人/人日>
第1四半期	0	0/0
第2四半期	3,048,197	14/71
第3四半期	444,010	1/8
第4四半期	1,494,793	4/21
計	4,987,000	19/100